

映像文化における日韓ジェンダー比較

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-04-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大原, 志麻 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00006541

映像文化における日韓ジェンダー比較

大原 志麻

1. はじめに

韓国と日本は地理的に近く、韓国人と日本人のなれそめは遠い古代に遡ることができる。両国の間には人間や文物の長い交流の歴史がある。しかしその歴史は同質的なものではない。特にジェンダーについては、共通点もあるが相違点もある。その鍵となるのは儒教思想である。日本では学問として捉えられている儒教であるが、韓国では文化として存続しており、^{ユギョ}儒教社会であるといわれている。

韓国において、新羅の骨品制、高麗時代の良賤制、中国からきた宗法制度という身分制度¹によって、女性の社会的地位は植民地時期まで低かった。そのため女性の地位の向上を図れるようになったのは解放以後という見方がなされている²。李氏朝鮮初期まで流動的であった性差であるが、ヨーロッパと同様中世末期から、男性優位が確立されていく。15世紀に士林派^{士林派}により、父、夫、息子中心の垂直関係で基本秩序が再編成され、夫婦、父母、子供たちという横の関係が、父子、君臣、嫡庶、長幼という徹底した縦の上下関係に変わり、抑えつけられていた女性の地位をますます下落させた。またそれまで男女の子供に均分されていた財産相続において、娘婿や外孫が妻の家、実家の財産分配の蚊帳の外に置かれ、女性の地位は地に落ちた。

西欧世界においては18世紀から男女同権へとシフトしていったが、韓国では1920年代から30年代まで活躍した「新女性」の出現により、女性問題が活発に議論されるようになってきた。従前の儒教的な家父長制に縛られていた矛盾的なジェンダー構図を改革し、女性個人の問題を顕わにしようとした女性解放の言説であった「新女性」だったが、当時の男性知識人による言論の中で、逸脱、放縦、虚栄、奢侈というイメージを付与され、植民地という時代状況によって厳しい批判を浴びるようになった³。今世紀に至っても男女の性差をめぐる論争は後を断たず、大きな社会問題となっているが、韓国では、今日もなお根強い儒教文化による抑圧的な女性ジェンダーの問題がある。

日本は西洋化という文化改革は行われたが、朝鮮半島のように外国からの支配を受けなかったため、女性にとっては直接的に「(日本人の)男性」という他者が問題とされた。韓国の場合は、男性社会の周縁にさらに近隣の中国や日本という他者が存在し、輻輳的であ

¹ 朝鮮史研究会編『朝鮮史研究入門』名古屋大学出版会、2011年、31-183頁。

² 石島亜由美「韓国への留学—女性学とどう向き合うか」『Rim』9, 76-86頁、83頁。

³ 李南錦「韓国近代における〈女性〉：「新女性」をめぐる(イギリス共同ゼミ)」『大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」活動報告書、平成21年度 海外教育派遣事業編』、186-191頁。

った⁴。

しかし1990年代に入ると、民主化運動の進展によりフェミニズム運動も新たな段階を迎える。女性小説家の活躍もみられ⁵男の視線を意識しない女性の書き手も現れてきている。韓国におけるジェンダー意識の変化は急速で、次々に男女平等を目指した法整備が進み、今日の韓国における女性の権利の確立は、国際的なモデルとするべきものであるとみなされている。このようなフェミニズム運動の影響を受け、文化面においても、特に2000年代からは、女性を中心としたドラマが制作され始められるようになった。しかし、韓国のジェンダー意識は、法整備と平行して直線的に発展していつているのだろうか。女性のあり方はグローバル化されてきた昨今においても、それぞれの文化において様々であり、完全にトランスナショナルなものではありえない。本稿では、女性ジェンダーの特質を、女性を表す新造語である「女子」と「女」の比較、古くから女性を表す表象である猫の日韓比較、そして今や一大産業となっている韓国映画・ドラマといった大衆文化によって表わされる女性の図式から考察し、日本との比較を交えて理解を深めたい。また本論は、主に2011年12月2日に学部長裁量経費言語文化学科重点によって催された韓国・ソウルの世宗大学での研究報告⁶と質疑応答を基とする。

2. 女子と女⁷

近年、日韓で女性を巡る周辺現象において「女子」そして「女」が多用されている。日本の「女子」は、単に女の子や若い女性のみを指すのではなく、例えば「40代女子」や「大人女子」のように高い年齢層の女性も含んでいる。また「女子力」や「女子会」のように、女性の周辺の事象を指す際にも用いられる。このように、現代の日本の「女子」は、指し示す対象が非常に曖昧であり、女性周辺の多様な事象において用いられる包括的な言葉である。また、現代の「女子」が多用する表現として「かわいい」がある。本来は小さいものに対する情愛や愛着を示す語であったが、今や「女子」は、本来「おいしい」と言うべき食べ物にも「かわいい」という表現を用いるなど、何に対しても「かわいい」と評し、更には「大人かわいい」「きもかわいい」等といった造語まで使用するようになった。この「かわいい」という語も「女子」と同じく、明確な定義が存在せず、線引きが曖昧なまま使用されている状況である⁸。

4 石島亜由美「韓国への留学—女性学とどう向き合うか」『Rim』9, 76-86頁、81頁。

5 きむふな「韓国女性文学の今日」『社会文学』27, 82-89頁、84頁。

6 2011年12月2日、韓国・ソウルの世宗大学校人文科学部日本語日本文学科の李秉鎮教授と、同学科の韓国人学生の協力を得て、世宗大学において「ジェンダー比較」をテーマに日韓合同ゼミを行った。日韓それぞれの女性についての議論を交わし、現地韓国の現状とリアルタイムの情報を提供して頂いた。

7 この項目は言語文化学科采優里「現代日本における女子」報告と質疑応答をベースにまとめた。

8 四方田 犬彦『「かわいい」論』筑摩書房、2006年。

一方の韓国には「女」^{ニョ}という語が存在する。代表的なものとして「味噌女（된장녀）」^{テンジャンニョ}と

「ベーグル女（베이글녀）」がある。まず「味噌女」^{テンジャンニョ}とは、身体のラインを強調する服やブランド品を身に纏った、虚栄心の強い女性のことを指すという。流行には敏感で、英字新聞や専攻の書物を片手にスターバックスのコーヒーを飲む、男性に甘えて奢ってもらう等、お金は無いがブランド物を身に付けている、高慢で見栄っ張りというマイナスイメージをもつ語であり、そのような女性たちを揶揄・非難するために作られた語である。数年前から韓国ではカフェ文化が広がり、街中では至る所にお洒落なカフェが存在する。それらはどれも欧米のスタイルを取り入れたもので、海外に本社のある店舗も多い。中でもとりわけ人気の高いのがスターバックスである。生活が苦しくても、昼食を抜いてでもスターバックスのコーヒーを飲むことにステータスを感じるというものである¹⁰。このように

「味噌女」^{テンジャンニョ}は否定的なイメージを全面的に押し出した造語である。

二つ目の「ベーグル女」^{ニョ}とは、「ベイビーフェイス」と「グラマー」を略した造語で、顔は幼いがスタイルはグラマーな女性のことを指す。近年の韓国では「ベーグル女」路線の女性が人気を集めているようである¹¹。しかし「ベーグル女」^{ニョ}という語には、女性を性的な対象として捉える男性の視線が介入しており、女性としては不愉快に感じる側面もある¹²。

⁹ Real Korea 「テンジャンニョ」

<http://blog.goo.ne.jp/ku310/e/dd51bec38d91ce5d1dcad26daf9e1e63>、2011年12月20日。

韓国の大学生は2007年4月付の自身のブログにおいて、「味噌女」^{テンジャンニョ}を以下のように定義している。① 文化事大主義にかぶれ、ニューヨーカー（New Yorker）に憧れ、彼らの文化を従っているが、「どうせあなたは「テンジャン」（土俗的な韓国人）に過ぎない」という意味で使われる。② 韓国には「頭の中にウンコしか入っていない」という俗っぽい慣用句があるが、ここで「ウンコ」が「テンジャン」に転化した。（韓国では「ウンコ」と「テンジャン」の色や形が似ているとし、よく二つの言葉が一緒に使われる場合が多い。）③「ゼンジャン」（このくそまたは畜生）が転じて「テンジャン」のような表現になることと同様に「ゼンジャンニョ」は「テンジャンニョ」に変わる。

¹⁰ みんなが知りたい韓国文化「韓国人女性は味噌女？」

<http://korean-culture.com/korean-wonam04-miso.htm>、2011年12月20日閲覧。

¹¹ 韓国エンターテイメントポータルサイト★KOARI「【話題ワード】“ベーグル女”って何？」

http://www.koari.net/bbs/board.php?bo_table=pardon_k_pop&wr_id=13、2011年12月20日閲覧。

¹² 2011年12月2日の世宗大学合同ゼミ。

以上の二語が「女」を用いた造語として一般的に使用されているものである。日本の「女子」のように、特定の集団を指す語としての「女」は、上記の二語の他には見られない。

「犬糞女」¹³「マフラー女」¹⁴のように、社会で起きた出来事から「女」を用いた語が生まれることはあったが、それらはいずれも特定の女性個人を指すものである。日本における「女子」は、特定の女性の集団を指す際にはいかようにでも用いることが可能で、他の語句と組み合わせた造語が作りやすく、指し示す対象も幅広い。しかし韓国の「女」は語義がはっきりしており、日本の「女子」のように線引きが曖昧ではない。どちらも既存の語であったものが、流行を生み出す使い勝手の良いものとして扱われていることは共通しているといえるだろう。また、日本の「女子」が肯定的に用いられるのに対して、韓国の「女」は否定的な側面をもつ場合があるのが特徴である。

韓国の女性の特徴として、確固とした理想像をもつこと、競争心が強いこと、外見重視であることが挙げられる。美容を例に挙げると、「あの女優のようになりたい」「もっと可愛くなりたい」「綺麗になりたい」というはっきりした理想と欲があり、そのために日々の努力を怠らない。韓国化粧品や整形手術が流行するのもそのためである。日本では整形があまり良い印象をもたれないが、韓国では自身が整形したことを口外することは何の恥でもない。それが綺麗になるための当たり前の行為として肯定的に受け入れられる。また、整形手術は他人よりもさらに美しくなりたい、負けたくないという競争心の表れでもある。韓国では「営業職に就く女性はエステに通うべき」と言われている¹⁵。

このような特徴は日本の女性と対照的である。「女子」という語にも表れるように、日本の女性の内面志向で、それほど高い目標をもたない。自分よりも可愛くて綺麗な読者モデルには憧れるものの、確固たる理想をもつわけではなく、「他人より少し可愛く、もしくは綺麗であれば良い」という願望程度のものである。今日の日本女性は、所属集団の仲間にさえ認められれば良いので、韓国の女性のように「完璧」は求めない。強い競争心をもたず、個体識別しがたい似通った格好により、他者との親和性を求める日本の女性¹⁶に、韓国の女性のような上昇志向はあまり感じられない。韓国の女性像は、内輪ではない社会や世界から認められるために美貌を求め、他者に勝つために努力するなど、日本の女性とは

¹³ 2005年6月、ソウルの地下鉄に若い女性が犬を連れ込んだ際、その犬が電車内で排泄した。女性は乗客の注意を聞かず、便の始末をすることもなく電車を降りた。その一部始終がインターネット上に晒されて大きな波紋を呼び、女性は「犬糞女」と呼ばれて非難を浴びた。

¹⁴ 2007年3月、ホームレスに自分の金で酒とパンと買い与え、さらに自分のマフラーを巻いてやった女子大学生が、インターネット上で「ソウル駅のマフラー女」として話題を呼んだ。

¹⁵ 2011年12月2日の世宗大学合同ゼミ。

¹⁶ 内田樹『ひとりでは生きられないのも芸のうち』文春文庫、2011年、31-34頁。

対照的である。儒教文化により、韓国では上下関係を非常に重んじるため、日本のように年上の女性に向かって「かわいい」と言うことは考えられない。韓国では「かわいい」は同年代以下に用いるものであり、年上の女性には「綺麗」や「美しい」といった形容をするのが普通である。それは年上の女性を「成熟した人」として褒めるべきだという考えがあるからだ。

また、軍事政権下において言論統制されてきた韓国では、そもそも文章を読む習慣が日本より乏しい。そのため日本のように数多くの女性向け雑誌はみられず、層の薄さから女性のスタイル、階層、傾向などが雑誌の系統でタイプが分かれることもない。韓国では雑誌は限られた紙面に限られた情報しか載せられず、即時性がないことから、雑誌文化そのものがあまり発展してこなかった。今や韓国では、インターネットが主な情報収集の場であり、メディアが限定的かつ伝統がないことから女性に関する表現が包摂的なものとなりうる土壌が十分に形成されていないともいえる。

3. 女性としての猫の表象についての日韓比較¹⁷

日本と韓国の文学文化における女性をめぐる象徴の一つに、猫がある。女性が猫を用いて表現されたり、反対に猫を女性として表現したりするものである。猫は、日本と韓国の両方で、穀物や書物におけるネズミの害を防ぐために飼い始められた。しかし、日本における猫のイメージと韓国における猫のイメージには、明確な違いがある。日本の場合は、猫はペットとして犬と人気を二分しており、古くは平安文学の『枕草子』や『源氏物語』において、貴族の愛玩動物として可愛らしく上品で優雅なイメージで描かれた。また、日本の農業文化や、養蚕業における猫のネズミを捕る実用性は高い評価を受けた。穀物や蚕などの人間の財産を守る猫の良いイメージは、招き猫や猫神社などの福をもたらすものであると認識された。一方で猫に魔性を見出し恐怖の対象とする化け猫も生まれたが、それが理由で忌み嫌われることもなく、人間に身近な存在であり続けた。『吾輩は猫である』など、猫を擬人化し、主要なキャラクターとして扱う文学や映画は多く、文学文化との関係も緊密である。

韓国の猫に関する先行研究は、韓国と日本の両国においてほとんど行われておらず、資料に乏しい¹⁸。加えて、猫が登場する民話や文学なども他の動物と比べて少なく、韓国人の猫という動物に対する関心の低さがうかがえる。韓国において伝統的な猫のイメージは、「不吉」「憎らしい」「恐ろしい」などの、負のイメージである。近年、若年層を中心にイメージの緩和がみられるが、猫に対して癒しを求める日本に比べ、「眼光が不気味」など、強い嫌悪感を示す人も多く、激しい温度差がある。このような両国における猫の表象において、共通している点は、女性としての猫の表象である。

日本の女性としての猫の表象は、化け猫において多く見出される。化け猫は老若男女に

¹⁷ この項目は言語文化学科鈴木晴日による世宗大学合同ゼミにおける「猫のイメージ比較」を基にまとめた。

¹⁸ 朴庚卿「猫の表象をめぐる日本と韓国の比較文化」『国際日本学論第八号』2011年、39頁。

化けたが、女性の方が多く、特に老婆に化ける傾向がある¹⁹。有名な鍋島の猫騒動では、当主丹波守光茂により客の竜堂寺又八郎が碁の争いから殺害される。それを聞いた又八郎の後室お政の方は自害するが、その怨念が愛猫に憑依し化け猫となって、光茂に復讐しようとするのである。猫は近習の小森半左衛門の母に化けたり、愛妾の豊の方を食い殺してなりすましたりする。また、老母の様子が急におかしくなったため怪しんでいると、実は老母に化けた猫であり、老母はすでに食い殺されていたというパターンの物語も特徴的である。

これらの猫が女性に化ける傾向は、猫の性質が女性に似ているためであるとされている²⁰。怪談などで女性の幽霊の執念深さが強調されていたように、女性は陰険なものとして考えられていた。また、メリメの『カルメン』の有名なセリフにもあるように、猫は気が向かなければ寄りつかず、都合の良いときだけ甘える気まぐれな性格が、女性と同一視されるというのは洋の東西に共通する、猫の普遍的な表象である。女性としての猫を扱った作品に、谷崎潤一郎の小説『猫と庄造と二人のをんな』²¹がある。この作品は、夫と妻と猫の三角関係を描いたものである。庄造は、リリーという雌の猫を飼っているのだが、一人目の妻品子と二人目の妻福子は、仲の良いリリーと庄造に苛立ち、嫉妬する。庄造の人生はリリー抜きでは考えられず、猫は擬人化され、女性としての人格を付与されている。猫であるリリーは一番魅力的な女性として描かれている。

韓国の猫を論じるにあたり重要になってくるのが、韓国社会に中心的な価値観である儒教思想である。儒教社会では、規範や道徳的価値観、身分や上下関係などを重視する。韓国で儒教徳目を教える際、よくたとえられる動物は犬である²²。主人に対する忠実さが評価されたのであろう。これに対して猫は恩知らずな動物として犬と正反対のイメージで語られた。猫は個人行動をする動物で、飼い主に従わない習性を持っている。これは日本やヨーロッパで、自分勝手だとか、自由で気ままな、気位の高いイメージと類似のものである。しかし韓国では、猫が家の内外を自由に行き来するため、規範や身分秩序にとらわれない流動的な存在であるとし、儒教の秩序に反するとみなされ、忌み嫌われた。

韓国では男性が忠実さを表す犬にたとえられるなら、女性は猫にたとえられる。男性は外や公的な場所で労働するのに対し、女性は家の中で働き公的な場所へと出てはならないなど、活動の場が制限されていた。狭い行動範囲と屋内での生活が中心である女性と猫は同一視されている。諺には「猫と嫁の功績は認められない」²³というものがある。『神様お願い』（*하늘을/시/여*, 2005年）では、姑に従わない気ままな嫁が飼っているのは猫であり、「猫を飼うなんて気がしれない」など陰でアジュンマに虐待されている。まだ飼われることが少ない、違和感のあるペットであるようである。また、映画『猫をお願い』²⁴では、猫をかわいがる五人の女性が登場するが、猫を飼おうとするのに対しその祖母が「不吉だか

19 平沢米吉『猫の歴史と奇話【新装版】』築地書館、1992年、57頁。

20 平沢米吉、前掲書、58頁。

21 谷崎潤一郎『猫と庄造と二人のをんな』新潮社、1981年。

22 朴庚卿、前掲論文、43頁。

23 「いくら貢献してもわかってもらえない」の意。朴侖玄『韓流男と女・愛のルール』講談社、2009年、98-99頁。

24 チェン・ジョウン『猫をお願い』マスルピリ、2001年。

ら飼うとよくないことが起こる」という迷信について言及している。五人の女性は学歴がないため収入の高い職に就けず、将来的な見通しがたたないなど社会的に不安定な立場であり、映画の中のおとなしくてかわいだけの無力な猫と重ねられて表現されている。

このような古い猫観が映像文化の中で表象される一方、今日韓国では猫に対する肯定的な評価もみられる。現在、慣習的に女性のタイプを猫顔と犬顔の二通りに区分され²⁵、これは、顔だけでなく体格や性格をも含む。猫顔の特徴は、つりあがった目尻、高い鼻、全体的に顔のラインがとがったシャープな印象を与えるもので、セクシーで「都市」的なイメージである。性格はわがままで、自分勝手、傲慢など、一般的に悪い印象を与える。近づきがたい印象を受けるため、友人としてはつきあいにくいが、芸能人や有名人であれば憧れを抱かれる。これに対して犬顔は、目尻がたれた丸くて大きい目、丸い鼻、ラインが丸く全体的にやわらかな印象を与えるもので、可愛い「少女」的なタイプである。親しみやすく、相手の母性本能を擽る。このように、猫と犬の性質や性格を人間に反映して区分している。韓国にも猫派、犬派、という言葉があるが、日本においてはペットの嗜好であるのに対し、韓国では好みの女性のタイプに言及する言葉である。ここから猫に対するイメージが読み取れる。猫顔は性的な魅力を持つ女性、それも美人だが性格は自己中心的で、いわゆる悪女のような印象を受ける。韓国では女性を「犬顔」か「猫顔」に分けることで、その女性が可愛いタイプなのかセクシーなタイプなのかを判別し、それが日常の話題として慣習的に行われているようである。

日本と韓国の女性としての猫の表象を比較すると、いずれも、猫の性質のマイナス面が注目され、女性に付与されている。日本においては、猫の気まぐれな性格や裏表のあるイメージが女性と似ているとされ、化け猫が化けるものの多くは女性とされた。韓国においては、社会的な地位が低く抑圧されていた女性が、猫と同一視された。そして猫を用いて女性を表現することで、社会的な不安定さや社会の風潮にそぐわないものとしてのイメージを付与する効果をもたらすという点で共通しているといえる。特に韓国では、^{ニョ}女と猫を女性に当てはめる場合は、否定的な意味が強いといえる。

4. 韓国映像文化におけるジェンダー

TSUTAYA を展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブによると、2011年5月の韓国ドラマ月間レンタル回数は約1214万回と過去最高を記録し、初めて洋画と邦画を上回った²⁶。今日の韓流の躍進には目覚しいものがある。世界の隣接する国同士で、片方の国の大衆文化がもう一方の国でブームとなった前例はない²⁷。ブーム以前は、韓国そのものが話題にならず、文化開放されても、韓国のドラマや映画は産業として成り立つとは考えられていなかった。画期となったのは1999年韓国映画で初めて劇場公開された『シュリ』(강제규, *쉬리*, 1999년)である。それまでの韓国映画は、芸術系の作品として評価されつつあった

²⁵ パク・ソミ「猫顔と犬顔のイメージ比較」世宗大学合同ゼミ、2011年、12月2日。

²⁶ 朝日新聞、2011年7月19日。

²⁷ 朴侗玄『愛されたがり屋の韓国人 「恋愛の法則」で深韓流がわかる』講談社、2010年、125頁。

ものの、ハリウッド映画よりもヒットすることはありえないと考えられていた。しかし、『シュリ』は『タイタニック』の観客動員数を越え、韓国がドラマ、アクション、エンターテインメント、南北分断問題をも扱う作品が制作できると考えられるようになる。『シュリ』は外国映画への関心がまだ残っていた当時の日本においてロングランとなり、韓国映画がビジネスとして成り立つとの認識が広まり、韓国映画の輸出実績の中で日本は総輸出額の6割を占める一位の輸出国となる。この10年で産業としての韓国映像文化をめぐる状況は激変した。

『シュリ』が韓国ではスパイ・アクションとして、そして日本ではメロドラマとして宣伝されたのが結果的に奏功したのだろう。NHKが2003年以降4度にわたり放送した『冬のソナタ』(겨울연가, 2002年)は日本人の38%が視聴した²⁸ドラマだが、トレンドイ・ドラマ以降中高年向けのドラマが不足していた日本において、純愛、泥沼、マクチャンドラマと呼ばれる物語の急転直下などがうけ、それは日本のドラマの不調と相まって隙間の分野を完全に奪われることとなる。その流れの中で、『宮廷女官チャングムの誓い』(이명훈, 2003年)などのイ・ビョンフン監督作品をはじめとしたフュージョン時代劇も、日本の時代劇の低下、大河ドラマの不人気を背景とし、絶大な人気を博した。韓流²⁹が、地域的に近い隣国でありながら互いに対する関心と理解が空白に時期にあった両国の間に、非政治的領域である文化コンテンツを通じた自発的相互交流を促したことは間違いない。

先行研究において共通するのは、2002年にKBSによって放送され、2003年にNHKでBS放送された『冬のソナタ』を画期とする、日本における韓流の社会現象的な広まり以降の、韓国大衆文化受容伸張と定着である。つまり文化的に受容されていることを前提とした、肯定的な需要領域の拡大という見解である。ドラマによる波及効果は日本人によって、経済・文化面で積極的に評価をされているとし、「近くて遠い国」の印象を「一番近い国」に変化させたとするのが、先行研究における共通認識である。しかし需要の実態は様々である。韓流を軸としてアジア文化のアイデンティティーとローカルスタンダードが形成されたとする評価もあるが、例えば中国でどの作品がヒットしたかなどの情報は日本ではわからず、また『冬のソナタ』は東アジア以外の場所でも需要がある。韓流がその支持層である「女性たちの中でトランスナショナル、トランスアジアな共通言語を作り、価値観が共有されている」³⁰とまではいえず、また韓流を通じたアジア文化アイデンティティーと呼ばれるものが、実際どのような共同体意識なのか定義されていない。しかし韓流のヒットの共通した理由と受けとめ方の差異が何かを探ることには意義があるだろう。

先行研究では韓流が発展の一途にあるとされているが、実態は異なる。2011年7月26日の俳優のツイッターによる反韓流文化ツイートをきっかけに、一部の政治家などの同調、嫌韓デモが続いた。2011年前期に静岡大学人文学部と教育学部において実施したアンケート

²⁸ 安貞美「日本における韓国大衆文化受容—『冬のソナタ』を中心に」『千葉大学人文社会科学研究』16、196 - 210頁、202頁。

²⁹ 1997年に中国の寒流を変えて用いられたとされ、以降アジア文化のアイデンティティーを認識して確認するローカルスタンダード形成の基礎を提供しながら、形成されていった。安貞美、前掲論文、197頁。

³⁰ 水田宗子ほか編『韓流サブカルチャーと女性』至文堂、2005年、24頁。

トにおいても昨今の韓流ブームについて半数以上がとまどいをみせている。無論、韓流ブームには、日本の優れた作品が韓流によって駆逐されている、という印象は受けない。韓国側の技術面での努力と国外市場を意識した戦略が優れているに尽きる。しかし、ナショナリズムや日本市場での競争相手としての脅威など政治的経済的な背景もあり、日本における韓流文化は肯定的な需要のみがあるとはいえず、バックラッシュの段階にあるといえる。

嫌韓には 50 年代まで強かった韓国やロシアなどへのゼノフォビア³¹の伝統がある。1894 年に始まる日清戦争の勝利は、日本人に従来のアジア的封建主義への蔑視というアジア観の大転換をもたらし、朝鮮人像が体系化されるようになった。それは日露戦争以後「独立」を否定する材料として用いられる。明治初期から韓国併合にいたるまでの朝鮮人像は否定的な性質が強調された。植民地的政策的な意図から創り出されたイメージは、1945 年の植民地支配からの解放後も朴正熙の朝鮮人欠陥論として、思想の枠として強固に底流する。しかしその後軍事独裁政権は清算されるべき対象となり、反動として民族性が高揚されるようになる。金泳三は、李朝の^{ファンク}換局はすぐれた民主主義であり、事大主義はバランスのとれた国際感覚であるとし、日本が野蛮であるとする図式が強化された。嫌韓は 1980 年代からは日本人の盛んな韓国旅行による、新たな韓国文化論が論じられるまで続く。1980 年代の第一次韓国ブームで、戦前的な負い目から自由な視点での印象批評がされ³²、90 年代の韓流ブームによりさらに転回する。このような長い歴史的背景から、今日においてもバックラッシュにおいて表出する嫌韓イメージはまだ払拭されていない過去でもある。

グローバル化された国際社会において、日本における韓流ブームの特徴の一つとして、関心が韓国文化全体に向けられた点である。特に韓国と日本は、社会・文化の様々な方面

³¹ 1951 年の日本人の異民族に対する好嫌で、朝鮮人の場合、好が 2%と極端に低くまた嫌の比率が 44%と圧倒的に高い。小倉紀藏『韓流インパクト ルックコリアと日本の主体性』講談社、2005 年 55-56 頁。

³² 両班政治が根源となる朝鮮王朝の四色党争の遺伝的天性からの「党争」「表裏不同」がまず挙げられる。そして、両班という支配階級が特権的な立場で庶民の財産を横柄な手段で奪い取ったため、一般民衆は貯蓄をして勤勉に働くのがかえって身の安全を危うくするとし、墮落せざるをえなかったため「怠惰」である。また「弁論」は、朱子学的な空理空論の体質からきたもので、労働の賤視、事大主義と党争が引き起こされた。そして金春秋と金庾信の事大主義に表れる「運命主義」と、対象と対決せずに悲劇を好む気質から新取の氣象と自立心に欠ける「諦念主義」。これら悪徳は李朝に原因があり、朋党、門閥など家父長的な特権意識からの排他的利己主義と、権力に頼る姿勢から社会意識の成熟が妨げられてきた。また、韓国人が自立できず、頹廢的欲望が助長されるのは「早婚」のためである。家族主義の弊害である早婚は、婦人と子供の蔑視思想へとつながり、婦人の再婚と同姓結婚の禁止など悪制度が助長されることにもなった。明治期の朝鮮風土論から、「温突」による暗黒に親しむ政情が養われた。朝鮮半島の自然環境の苛酷さから、狭い温突に数人が雑然と横臥し、百日以上の長い冬場を過ごしたため陰謀、飲酒、投機的、浪費癖の悪習慣が生まれたとする。日韓併合時には、両班ではなく日本人が朝鮮人を導く方がよいとされ、日本人が地主となり資本家となり、朝鮮人は製造ならば労働者、土地ならば小作人であると想定し「従順」であると定義された。南富鎮『近代日本と朝鮮人像の形成』勉誠社出版、2002 年。

において共有する点が多く、韓国人と日本人は顔の印象、食文化、家族観、母国語の構造もまた非常に似ている。また、日本と韓国では女性を取り巻く社会環境や直面している問題は、韓国の事例がそのまま日本にあてはまるような共通性が高い。そのため、時には日本と同じルールが通用するのではないかという錯覚にすら陥る。しかし他方では、文化や意識の差に基づく相違は端々に見られる³³。それは韓国の映像文化における、日本とは異なる構造からも顕著に見られる。韓流の広まりに伴い、日本国内で視聴できる大量の映像文化から見えてくる共有できない価値観への抵抗も大きくなってきているのではないだろうか。本稿は、近年大量に入ってくる韓国ドラマに接したことが契機となっている。もはや先行研究にあるような、強い正の相関関係のみがあるとはいえず、否定的なイメージによる態度変容も、韓流への認識の広がりにより、浮かび上がってきている。特に、日本と同じ女性を巡る社会問題があるとされている韓国における女性の描かれ方は、日本と大いに異なる側面がある。韓国は意識的なジェンダー原理に基づいて組織されている社会である。映像文化においてもジェンダー、特に女性の役割が核心的な 이슈 になっている。韓国では、急速に男女平等が進んでいったが、女性団体が男性中心的な観点の民族文化と歴史に対する効果的な抵抗ができるようになったのは、ごく最近になってからである³⁴。今日の韓国社会は、国際社会において評価を受けている先進的なジェンダーフリーの理念と、それまでの根強い儒教原理による良妻賢母思想が混在している状態にあるといえる。韓国のフェミニズムによる改革もバックラッシュの段階にあるといえよう。

異文化イメージの形成においてドラマや映画といった大衆文化は絶大な影響力を持っている。音楽・映画・ドラマといった大衆文化はあくまで創作であり、その意味で現実世界と異なるが、その国の文化を映す鏡でもあり、人々の生活ぶりや価値観を反映しているともいえる。ドラマや映画はバーチャルなメディアであるが、韓流ドラマの場合、一本のドラマが非常に長い場合が多く、中には長いものでは 200 時間を越える作品もあり、その分人々の考え方や行動の背景、人間関係のあり方などが、プロトタイプに則り、詳細に描かれている。本稿では、女性による文化の変革といわれる韓流ドラマにおける、特に支持を受けている作品中に女性の役割についての描き方に着目し、日本とは「同じではない」点を明らかにした上で、それぞれの女性の地位と役割、ジェンダーをめぐる共有できない価値観を提示する。日韓のジェンダーの差異について比較し、日韓の共通点と共に差異点を確認することは、韓国社会を理解する上で重要な視座を提示することにもなるであろう。

a) 格差社会

現在の韓国社会において、格差社会は深刻な問題となっている。韓国では働く人の半数近くが非正規雇用で、20代では9割に達するといわれている。就職先がない若者がアルバイトをしても時給は安い。アルバイト先 500ヶ所を調べたところ、約三分の二が最低賃金

³³ 申惠璟「韓国と日本社会における女性の地位と役割—男女平等を目指して」『Rim』3、22—28頁。

³⁴ 李南錦「韓国近代における〈女性〉：「新女性」をめぐる」『大学教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」活動報告書、2009年、186—191頁、186頁。

4320 ウォン（約 290 円）に満たなかった。ジニ係数は 95 年の 0.26 から 2009 年の 0.32³⁵へと数値が大きくなり「解雇反対」「非正規職撤廃」を目指す反格差運動は広がるばかりである。韓国は 1997 年に通貨危機に見舞われ、IMF に従い、財閥の経営改革や金融機関の再編などに踏み切り、2 万社を超える倒産と 200 万人の失業者という痛みを受け入れた。支えたのはサムスン電子や現代自動車といった財閥グループで、競合する大手や中堅・中小企業の倒産で国内市場を独占し³⁶、韓国における寡占は進むばかりである。韓国サムスン電子は、2010 年 12 月期決算で売上高が過去最高の 154 兆 6303 億ウォンであったと発表した。その一方で、リーマンショック以降、輸出に頼る韓国は長期にわたる不況により、就職が困難な状況にあり、過当競争が激化している。また、人に使われることを好まない韓国では、事業を起こすことがよしとされている背景から、商売は小さい規模から大企業でホワイトカラーが不在であり、中間層がない。あるのは財閥か零細企業であり、その差は歴然としている。平準化された日本と異なり、社会の中に目に見えるかたちでの格差が存在している。それだけにホワイトカラー職と非ホワイトカラー職との威信格差がきわめて大きい。

伝統的にも 14 世紀末からの李氏朝鮮の社会体制は、両班、良人、中人、奴婢による常奴^{サンム}があり流動性はない。日本の武士道が武士階級のみを対象とする相対的価値基準であったのに対し、韓国の身分制社会は儒教を体得（両班）できなければ人間ではないという絶対的価値基準があった³⁷。韓国の人々に共通する「恨」は、財産・家柄・古い風習を伴う。科挙という官吏登用システムによる強烈な上昇志向の社会である儒教社会であった韓国と、封建的日本社会の構造上の違いがある³⁸。韓国では日本のように財閥解体もなかったため、「富益富、貧益貧」が確立し、社会的流動性は実質存在しない。韓国では親の財産がなければ経済的上昇は見込めないという意識が強い³⁹。

2010 年にイム・サンス監督の『ハウスメイド』（임상수, *하녀*, 2010 年）が、韓国社会の階級問題を正面から描いたことで話題となったが、韓流ドラマの葛藤構造の第一に挙げられるのは格差社会である。「素敵な財閥の御曹司と出会って恋に落ちる」のが多くのドラマの話の軸にある。社会の中に目に見えるかたちでの格差が存在しており、貧しい層が視聴者の大きな部分を占めているはずだが、貧困を憎み、富裕層とのつながりに感情移入をするのが主流のようである。『私の名前はキム・サンスン』（내 이름은 김삼순, 2005 年）、『マイ・プリンセス』（마이 프린세스, 2011 年）、『ガラスの城』（유리의 성, 2008 年）、『神様お願い』、『宮 -Love in Palace-』（궁, 2006 年）『君は僕の運命』（너는 내 운명, 2008 年）『イノセント・ラブ』（순결한 당신, 2009 年）『白い嘘』（하얀 거짓말, 2008 年）『妻が帰ってきた』（아내가 돌아왔다, 2009 年）など、ほぼ全ての人気ドラマの中心に財閥の御曹司や非現実的な大金持ちとの、格差を乗り越えた恋愛と結婚が絡んでいる。韓国では母が娘に「~사（医師、弁護士、教師）のつく職業」の男性との結婚を願うが、条件の高い相手と

35 韓国統計庁調べ。

36 2012 年 11 月 19 日朝日新聞。

37 朝鮮日報編『韓国人が見た日本 日本を動かしているもの』サイマル出版社、1984 年、38 頁。

38 小倉紀蔵『韓流インパクト ルックコリアと日本の主体化』講談社、2005 年、115 頁。

39 世宗大学、2011 年 12 月 2 日のイ・ビョンジン教授のコメント。

の縁を望む究極の段階が財閥との縁となるのだろう。日本のドラマでは格差がないことが前提とされるか、経済力のない方を純愛だとして選択するが、韓国でははっきりとした格差の中で、貧しい方を選択するハッピーエンドはありえず、力を持つ男性を選ぶシンデレラ・ストーリーを求める。

韓国は歴史的に家父長制に基づく階級社会であり、二階層だけが存在した。それは略奪者と被略奪者の構成であり、両班に対し平民はただ前者に供給するだけの存在であった⁴⁰。性心理学による上昇可能性による理想の場所への憧れと、それが現実的に到達不可能であることからの無念さ、これを同時に感じるのが恨⁴¹であり、韓国ドラマの特質の一つには、登場人物が韓国独自の道徳観の下で葛藤し、運命的試練に立ち向かうものがある。19世紀以降結婚が個人同士の恋愛によるものが一般化する西欧世界と異なり、韓国では今日も結婚は家と家との取り決めというニュアンスが強く、格差があるほど、ドラマとしての悲劇の可能性が強まる。そのため、シンデレラ・ストーリーも手段を選ばないものとなっており、支配する側に立とうとする韓国人の欲望が現れている。日本にありがちな、ヒロインの美点による幸運という単純なシンデレラ・ストーリーではなく、家柄の格差をはっきり描き、低い方がリアルに排除される。『揺れないで』(흔들리지마, 2008年)のスヒョンや『黄金の新婦』(황금 신부, 2007年)のジョンのように、学歴や美貌を兼ね備え、財閥の御曹司と格差を乗り越えて結婚しても、個人の能力だけでは不十分で、家柄の差を埋め合わせるべくいかに策を弄し続けるかなど、陰謀がなければ低きは高きにもぐりこめないとして描かれているのも特徴的である。玉の輿に乗る女性はなにか謀略があるというのが常なる結論である。

ドラマの基本構造はどの国も同じだが格差の描き方については、日本と韓国ではさらに差異がある。貧乏人が上昇し、金持ちが阿漕であるのが日本ではよい話であるとされるが、韓国では、かつての日本のヤクザの描き方と同じように、貧乏が悪として描かれることが多い。ハッピーエンドとされているのは、実際には白丁ではなく宮廷武官と女官の両親を持つチャングムや、『神様お願い』のジャギョンのように実は財閥の一人娘である出生の秘密のある貴種や、大手アパレル会社の長女であったが、貧乏人の策略で転落し、復讐のため這い上がり「元いた場所に戻る」『ピンクのリップスティック』(분홍 립스틱, 2010年)のガウンや、元の庶民に戻っていく『ガラスの城』のミンジュのように、そもそもの所属階級に落ち着く結末となるのも日本と異なる点である。

実際大金持ちではない視聴者が多いのにもかかわらず、貧=悪とするところも独特である。経済発展による高学歴化が進んでも、ドラマにおいて大金持ちから貧しい登場人物まで、全ての家庭が財産や家柄などバックグラウンドを重要視するのは興味深い。日本のドラマでは玉の輿願望は持たないか少なくとも隠すため、シンデレラ・ストーリーが主流である傾向とそのドラマの構造は日韓で大きく異なる。

b) 働く女性

⁴⁰ 李恩珠「韓国の学歴社会と男尊女卑思想～農村女性の識字問題を中心に～」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』17号-1、147-155頁、148頁。

⁴¹ 小倉紀藏、前掲書、84-85頁。

表 女性を巡る法整備⁴²

1987年	男女雇用平等法	
1989年	家族法改正	財産相続や養育件における男女平等化
2001年	男女雇用平等法改正	間接差別禁止規定の具体化と全ての事業所に対する法の適用範囲の拡大
2003年～	第2次女性政策基本計画	両性平等意識を高め、女性の労働力の積極的な活用を目指す
2003年	男女差別禁止・救済に関する法律施行規則	性別により不利な待遇を要求する質問の禁止。性別の制限、特定の性に対する未婚の要求、優遇、職種名称の表示、別途の採用試験、合格基準の差や身体的条件の禁止。
2005年	民法改正案可決	本人基準に家族関係を記録する新たな身分登録制導入。父系父姓で維持される父系血統を打破し、戸主相続権や祭祀相続権による男児選好の根源となっている戸主制が廃止される。

韓国では男女共同参画社会の基本法の整備が急速に進んだ。既婚女性の就業は増加し、2004年段階で、15歳から64歳までの有配偶者女性の労働率は日本が60.2%、韓国が54.1%と両国ともに50%を超えている。この数値は、これまで強固と考えられてきた日本と韓国の性別役割分業体制が崩れつつあることを示している⁴³。韓国のフェミニズムは政府が与えたフェミニズムだといわれ、政治主導によって進められたが、一般にはまだ慣習や文化の中で伝統的な価値観が併存している。日本と韓国はいつも女性の地位を競い合い、男尊女卑の儒教文化に縛られてきた。「女に教育を受けさせると家が傾く」「女が外に出ると家が潰れる」と現在のドラマでも言及されるような韓国では、男性優位社会と学歴社会の弊害という二重の抑圧がかけられている側面がある。未婚率の上昇や晩婚化、離婚の増大などによる女性の生活の多様化から、母子父子福祉法など、社会福祉関連法が90年代以降整備されたが、2005年に施行された健康家庭基本法は出産や養育、老人扶養が成り立っている家族だけを「正常家族」と規定しており、家庭内の女性の義務や役割を助長する家父長イデオロギーに基づいた法であると韓国女性団体連合によって批判され、廃止を求められている⁴⁴。次元は異なるが、韓国では男性を接待する^{ジョブデブ}ホストデブは合法であるが、女性がホストクラブに行くのは接客男性禁止法により違法⁴⁵である。『レディ・プレジデント』(2010年)においてもホストクラブで女性が逮捕されるシーンもあるが、固定的な男女の不平等は、まだ解消されない大きな課題として残されている。

女性の就業を描いた『猫をお願い』(2001年)は女性から大きな支持を受けた映画である。学歴エリート的女性に焦点が画的に当てられることがほとんどの韓国映像文化の中で、商業高校卒の女性たちのブルーカラー化とその閉塞感を描いている。

⁴² 春木育美『現代韓国と女性』新幹社、2006年より作成。

⁴³ 裴智恵「日本と韓国における既婚女性の就業を規定する要因」『社会学研究科紀要』第66号、1-11頁、1頁。

⁴⁴ 春木育美、前掲書、26-27頁。

⁴⁵ 朴侖玄『韓流男と女・愛のルール』講談社、2009年、61-66頁。

テヒの弟は教育を受けられ受験勉強をしているが、テヒは商業高校を卒業して無給で家業であるサウナを手伝わされている。ヘジュはコネで大手の会社に入るものの中で上がっていくことはできない。好意を持つ上司がいてもあっさり大卒の新入社員に奪われてしまう。とってつけたようなラストであるが、高卒女性が上昇できないことをかえってリアルかつシビアに描いているといえよう。日本または中南米スペインのドラマにみられるような、能力と人格で上昇していくのが信じられないというのが韓国での現実なのだろう。高卒でも別の仕事に就いて切り替えていく日本と比べて、韓国の格差意識は均質的である。

また『パスタ～恋が出来るまで～』（*파스타*, 2010年）において、ユギョンがキャリア上またとないイタリア留学の機会を実力で手に入れた際、日本のドラマであればイタリア行きを選ぶところを、父親からの「女が愛する人から離れて仕事をしてどうする」という説得もあって、ヒョヌクを選び、副次的なキャリアに留まるところも象徴的である。女性を内に留めるため「女性に靴をプレゼントしたら、逃げられてしまう」という諺も様々なドラマで聞かれるセリフである。

また、働く女性の扱いも独特である。韓国では李氏朝鮮以来、儒教の考え方が社会に浸透し、男女有別、内外区分というという見えない壁がある。韓国の女性の社会的参加を示す労働力曲線は、近年に至るまで諸外国と比べてはっきりとM字型を示しており、結婚ないし出産で退職する女性が多いことを示している。また既婚女性と未婚女性の働く分野も明確に分かれている⁴⁶。学歴が高いほど労働市場で働く女性の多い欧米諸国に比べ、日本と韓国では高学歴の女性ほど結婚や出産とともに労働市場から離脱する傾向が強くみられる。両国の女性にとって、高学歴は労働市場よりも結婚市場において大きな意味を持っており、職業への準備ではなく、よい母親として子育てに必要とされる教養を身につけるため、高等教育機関に進学するという解釈もあり、日本と韓国の特異な現象として捉えられている⁴⁷。90年の段階では「韓国の高学歴女性は主婦となる」といわれ、韓国女性の5人に1人が大卒者でありながら、「良妻賢母」という社会規範や、性による役割分担という儒教の伝統的規範が専業主婦化と就業忌避を促している。『ガラスの城』のミンジュ、『黄金の新婦』のジョンは、これまでの就職への努力、仕事のやりがいを姑に全否定され、仕事を辞めさせられようとする。『ガラスの城』のユランも高学歴エリートでありながら専業主婦となる選択しかなく、「女性は家で家事」の社会文化から抜け出せないでいる。学歴は社会のエリートと結婚するために必要な、上層階級の証としての大学卒業の資格の必要性にすぎない側面がある。学歴は社会の上層部へ上がるのに不可欠な「玉の輿にのるため」の切符でもある。それも『赤と黒』（*붉은 검*, 2011年）で、ムン・ジェインに対してその元彼の母たる財閥の夫人が「学歴だけでのし上がろうとする女が大嫌い」と切り捨てているように、あくまでも条件の一つに過ぎない。

良妻賢母意識から、女性が仕事と家事を両立している場合、家事への負担はおもに女性が多く担わざるを得ない状況にある。既婚者の1日の平均家事時間は女性3時間18分、男性26分とその差は著しい⁴⁸。制度的男女平等は整備されていても、家庭内の性別役割を容

⁴⁶ 島本みどりほか『韓国の働く女性たち』東方出版、2003年、16-17頁。

⁴⁷ 裴智恵、前掲論文、1-11頁、3頁。

⁴⁸ 春木育美、前掲書、20頁。

認する考えの根強さはこのような統計や映像文化からも確認できる。韓国女性に矛盾するイメージはこのようなことを背景にしている。キャリアウーマンのスヒョン、ジョン、働いているチンジュや、『ソル薬局の息子たち』(솔약국집 아들들, 2009年)の長男の嫁スジンは弁護士でありながら早朝から起き出して家族全員のための家事をしてから出勤し、『寶石ビビンバ』(보석 비빔밥, 2009年)の長女で脚本家のビチュイや次女で看護師のルビが働いて家計を支えると同時に全面的に家事を請け負っている。ガンジは餅研究所で働くため、朝食の準備を免除してもらうのに夫のサノに膝を屈して許可をもらわなければならない。男女役割分業意識についてはほとんどの人が否定的であるが、男性の仕事と家事の両立、すなわち、男性の家事参加について女性自らが否定的に捉えている。こうした女性のジェンダー意識は、韓国社会がこれまで女性に押し付けてきた「良妻賢母」意識から抜け出していないことがわかる⁴⁹。

家で家事分担は行っているものの男性の参加率は非常に低い傾向をみせている。子育てに関しては、性別にとらわれない思考、つまりジェンダーフリーな意識を持っているものの、家事に関しては主に女性の役割として受け止めている傾向がみられる。したがってジェンダー矛盾に気づかずに女性自らが家事負担を肯定してしまう傾向がみられる。男女平等であらねばという考え方が導入され、法整備もされてきているが、伝統的な性役割規範の強さから、仕事よりも家庭を優先し、就職での募集の男女差別や結婚妊娠退職の慣行が残っていることから、女性の労働市場における意識向上には時間がかかるものと思われる。この20年数年の間に、韓国の女性運動や女性学は非西欧社会で一つのモデルになるほど量的、質的に飛躍的な発展を遂げてきたといわれている⁵⁰。しかしジェンダー主流化には多くの伝統的概念が並存しているようである。

c) 男女有別

ドラマの女性たちの不幸に集中する要素の一つは、儒教の家族制度である。女性を服従させる家族制度や父権制度により、忠実であることや親を敬うことを強いる全体主義から女性のアイデンティティを描いている。決定権と財産権を家名の代表者が持つ家長制度に由来し、女性に自己犠牲を要求する。『ピンクのリップスティック』で姑は、ガウンに「夫は天である」とし、息子の放蕩への忍耐を嫁に強要し、家事を手伝っていようものなら「夫が家事をすることは使用人扱いするのか」と非難するが、他のドラマでも類似のシーンは多々みられる。ドラマでは儒教の否定的様相を巧みに組み合わされている。

女性の従属だけではない。韓国ドラマの大きな特徴として、勝ち組の女性が男の子を生み、敵役、もしくは二次的な役どころの女性は女の子を産むという傾向が挙げられる。

李朝後期の社会の特質は、男子のみ相続の権利があることである。長子への配分は大きく、子供が娘しかない場合は子供がいらないものとみなされ、父系血統内から養子をとつ

⁴⁹ 「生活協同組合運動と女性のエンパワーメント (II) —韓国女性民友会生協を中心に—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第56集・第2号、29—51頁、15頁。

⁵⁰ 李麗華「韓国における「性売買防止法」制定運動をめぐるジェンダー・ポリティクス」『人間文化創成科学論叢』10号、319—327頁、319頁。

た。娘の婿に家を継がせる婿養子は韓国ではありえず、理解されない。正月、秋夕の祭祀の祭主は長男と決められており、男子がいないときは、その家の家系は途絶え、祭祀も終わる⁵¹。「息子は必要か」という問いには、程度の差はあっても後継者として息子を意識する気持ちは過半数の韓国人にあり、女性より男性にこの傾向は強い。胎児の性識別のための医療技術の発展やその利用により、80年代以降男女の出生比の偏りが、とくに第三子以降の女性が二分の一以下になるなど男児選好の問題が深刻化した⁵²。最近では女の子の方がいいという意見も多く聞かれるようになった反面、他方では、韓国人の中に「男児選好現象」が残っているといえよう⁵³。

ピチュイ、ジャギョン、チンジュなどのヒロインたちはハッピーエンドとして男の子を産み、妊娠を理由に結婚をせまるような『神様お願い』のムノク、『ピンクのリップスティック』のミランなどには女の子が産まれる。またジャギョンの夫ワンモは理想的な優しい夫であるが「最初の子は男の子でなければ」と明言する。またピチュイやジャギョンが結婚後5ヶ月または8ヶ月妊娠しないことに周囲はノイローゼになるほど心配をし、男子が生まれれば「長男の嫁としての義務を果たした」と大喜びする。『イノセント・ラブ』や『揺れないで』のように、子供ができると縁があり、子供を流産してしまうと不縁となるパターンも法則の一つである。『イノセント・ラブ』のスア『白い嘘』のナギョンのように不妊夫婦は破綻する。また、女性が一時的にでも立場を逆転できる手段として、スヒョンやジョンのといった偽装妊娠があげられる。また子供より仕事を優先させるためにピルを飲むジョンやミンジュは、離縁へと向かってしまう。クリエイティブな男性／リプロダクティブな女性という西洋での19世紀ロマン主義の考え方が韓国ではまだ有効であるといえる。

韓国では兵役も社会の秩序付ける役割をしている。『レディ・プレジデント』では、新任の女性知事を、男性の部下が「兵役もやったことがないくせに…」と見下す。軍隊では上下関係がしっかりしており、兵役をやる／やらないにより、男女間の優劣にもつながる。ただ近年では、世宗大学の女子学生たちの「こちらは子供を産む」から兵役をやる男性と対等だと主張するなど、平等化が進み、男性が危機感を抱くようになってきている⁵⁴。

日本は家族の上にも国家や社会のような目的社会が存在する。しかし韓国人の家族主義は、個人や国家よりもさらに上に位置し、血縁・家族の利害関係が何よりも優先されなければならないという価値観に慣れている⁵⁵。父系血統主義の家族主義の原則の中、母の権力は長男を生み、出世させることから始まる。子供は決定的な切り札となり、男の子を産むことが最重要視され、男子を産んだ女性の地位は高かった⁵⁶。90年代以降、政治的経済的な変動を受けて、伝統的な家族形態が著しく変容し、未婚化と晩婚化、核家族化が進み、出生率は先進国の中で最低水準にまで落ち込んだ。しかし『ソル薬局の息子たち』のオクヒ

51 小林孝行編『変貌する現代韓国社会』世界思想社、2000年、48頁。

52 春木育美、前掲書、51頁。心理的な満足、家庭幸福、家門意地、祭祀、老後の生活の順で息子を必要とする理由が挙げられる。

53 島本みどりほか、前掲書、148頁。

54 2011年12月2日世宗大学における日韓合同ゼミ。

55 安貞美、前掲論文、204頁。

56 井上和枝「朝鮮の新女性—その希求と挫折」『東京大学コリア・コロキウム講演記録』33-63頁、51頁。

を典型とするような、アンケートにみられるオモニの印象であり日本人が苦手とする、一途・熱心・うるさい・早口・声大きい・子供から、特に息子から愛されているイメージはまだ健在のようである。そして『イノセント・ラブ』、『神様お願い』『黄金の魚』(황금물고기, 2010 年)のように、オンマたる母親の悪縁が、子供の人生を直接的に左右するというのも、日本とは異なる点である。

d) 長女の役割

韓国ドラマにおいて長女への負担も顕著であり、上が下の面倒を見る古い東アジアの伝統が残っている。家系を継ぐ長男を出世させ、嫁いだ家門を盛り立てる母親の義務は、しばしば長女にまで犠牲が及んだ。長女は生存戦略の代表的な手段である感覚は今日にも残っている。『海神』(해신, 2004 年)で無能な兄の強要により売られ、自身の幸せよりも家の再興を担わされるチョンファ、『ロード・ナンバーワン』(로드 넘버원, 2010 年)のソ

ンは病弱で無能な兄の愚行の尻拭いばかりをさせられ、『百済の王グンチョゴワン』

(근초고왕, 2010 年)のヨファも執念深い父により愛するヨグから引き離されサユに嫁がされ、無謀な兄二人の代わりに古尔王系が王位につけるよう慰礼宮にさせられる。『ホジュン』(호준, 1999 年)のダヒのように兄が屋敷に住み続ける一方で、父親が謀反の罪を着せられ逃亡中の世話を一手に負うなどの歴史ドラマにおける共通した役割を担っている。これは過去の世界を扱う歴史ドラマに留まらない。『白い嘘』のウニョンも甲斐性のない父親、面倒ばかり持ち込む妹や妹婿などのために、金持ちの息子である知的障がい者に嫁ぐ。ピチュイは、自ら志していた放送作家の道を断念し、日銭の入る食堂を営むことにし、長男たる弟の面倒をみて、姉妹たちは男兄弟に部屋を与えるために相部屋に甘んじる。そしてだらしのない親には「長女だから」という理由でひたすら面倒を押し付けられる。『神様お願い』のジャギョンは義母の借金を全て背負わされ、自身は大学を中退させられながらも弟は進学させるため塾にも通わせる。『メリは外泊中』(매리는 외박 중, 2010 年)『千万回愛しています』(천만번 사랑해, 2010 年)『ガラスの城』『黄金の魚』(황금물고기, 2010 年)『揺れないで』『憎くてももう一度』(미워도 다시 한번, 2009 年)『ピンクのリップスティック』などなどほとんどの韓国ドラマの中にろくでなしで無職の家族が出てきて、長女が苦勞す

る。寸数^{チウンスウ}によって表される日本よりも広い親族関係において、経済的な問題までもを抱え込まなければならない家族のあり方というのは、身近な危機として実感されるものなのであろう。『ピンクのリップスティック』のジョンヒは、兄を大学に進学し、自分は教育を受けられない。家が傾けば、全てを犠牲にして家族の面倒を引き受ける。それでいて何も報われず、母は兄しか見ないままである。ピチュイは「結婚する時貧しい親がいる人はどんなに学歴と職業がよくても全て吸い取られるから」と家の財産を重視する。

また『愛の選択 産婦人科の女医』(산부인과, 2010 年)ではソン・ジュンギの見合い相手は兄弟家族全ての学歴と職業を確認する。日本であれば恋愛ドラマは若い二人だけで成り立つが、韓国ドラマにはハラボジ、ハルモニ、オモニ、アボジなど家族全員が恋愛そして結婚に介入する。その背景には、このような家族関係の存続が背景にあるのだろう。激

烈な競争社会における、弱者救済の一手段が、儒教において年よりを大事にするであり、一家の存続は長女の犠牲に負っているのである。

e) 外見至上主義

「身体髪膚これを父母に受く。あえてき傷せざるは孝の始めなり」に象徴される儒教的思想が基底にある韓国社会において美容整形ブームは馴染まないようにも感じられる。現実には、親も子供もそう考える人は意外に少ない。それは、現在を大事にする「現世主義」や、すぐ結果を出せて幸せになれるならその方をとる「実用主義」の思想からきている⁵⁷。女性の社会進出の向上とともに、今日では、化粧を手段とした美の追求の延長線上に、整形を通して改善を望む段階にきている。生まれつきの外見も人的資源として判断されるようになり、それは芸能人、スチュワーデスのように外見を重視する職業に限られていない。一般事務職ですら美人であることが相当に有利に働き、ともかく美人であればなにかに必ず役に立つだろうと、企業側に判断されているといわれている⁵⁸。韓国では、一重の目を罪悪視する傾向が非常に強く、まずはそこに手を加える⁵⁹。また化粧品もウェルビーイング(Well-Being 健康第一主義)ブームでの「センオール」(すっぴん)重視から、基礎化粧品に注目され、野菜、穀物、納豆に加え毒蛇やカタツムリなどあらゆる素材を利用している⁶⁰。外見至上主義が植えつけられており、外見が人生を左右すると思う人が68%に至っており、外見は人生の成功のための必須条件だと認識されている⁶¹。外見がよい人は、容易に他人から援助を受けられるし、就職する時も経歴が同じくらいである時は、外見がよい方が、採用頻度が4倍も高いという統計値が報告されている⁶²。

韓国ドラマにおいて、ヒロインたちの美貌はほぼ必須条件である。歯磨きやメイクのシーンも多いのも特徴的である。『ガラスの城』のジュンソン、『神様お願い』のワンモ、『宝石ビビンバ』のヨングクなど、ヒロインの相手役たる財閥の御曹司はただ家柄がいいだけではなく、外見も学歴も備わっている。日本のドラマでは、外見よりも性格が優先する。また「どれかひとつ長所があればいい」とする日本とは異なり、韓国では完璧であることが理想とされている。大きな支持をえている韓国ドラマには次のような構図が当てはまる。つまり美貌と知性を兼ね備えたヒロインが、家柄、学歴、美貌を兼ね備えた夫を手に入れ、男の子を生み地位を磐石にするのが女性の理想のあり方であり、視聴者はそこから始めて代理満足を得る。そしてその構図において生じる葛藤を基本として物語をつくっているのである。日本にも社会的に大きな格差があり、韓国と同じように玉の輿願望がある。し

57 朴侖玄『愛されたがり屋の韓国人 「恋愛の法則」で深韓流がわかる』講談社、2010年、40頁。

58 李智英ほか「現代韓国女性の美意識(1)―化粧文化からみる美意識の変遷と美容整形ブームの出現―」『New Food Industry』50, 74-83頁、82頁。

59 金智羽『韓国男性に恋してはいけない 36の理由』成甲書房、2009年、168頁。

60 朴侖玄『愛されたがり屋の韓国人 「恋愛の法則」で深韓流がわかる』講談社、2010年、23-24頁。

61 李智英ほか、前掲論文、82頁。

62 李智英ほか「現代韓国女性の美意識(2)―美容整形手術がもたらした心理的变化とその功罪―」『New Food Industry』50, 74-84頁、82頁。

かし、そのような本音に共感するよりも、建前をドラマにしている方が気持ちよく見ることが出来る。ここに日本と韓国の女性を巡る価値観において、代理満足を得られるポイントの違いをみることが出来る。『神様お願い』のスラは、財閥の御曹司との見合いが失敗し、友達であった医者の子でハンサムなイリを意識するようになる。しかし家柄と外見に加え、イリは大スターとして成功する。ここまで完璧に整わないと、満足しないのである。日本のドラマでは性格がよければいいとされるが、韓国では、外見もまた手に入れなければならない権力の一つなのである。

5. おわりに：女性中心のドラマ

韓国の女性たちは、自分が創り出す多様な社会的アイデンティティーにも関わらず、歴史的、生物学的なこれまでの女性のありかたに縛られている側面があるとこれまで述べてきた。すべての女性を同一にカテゴリー化しようとする男尊女卑的な儒教的な言説は、今日もなお強力に女性たちを規定し、統制し、女性たちに自らこのような文化的権力を内在化させている⁶³。

多くのドラマにおいて女性のイメージがまだ伝統的な価値観に囚われているように見える中で、次の段階へと進んでいっているドラマの存在は日本よりもめざましい。従前の女性が主役のドラマは、韓国女性における最高至善の美德である節操を称え、再婚の罪悪視⁶⁴により、死ぬまで操を守るというものであった。90年代では男性が主役のドラマしか作ることができなかったが、『宮廷女官チャングムの誓い』以降、女性が主人公になるドラマが制作されるようになった。しかしそれでもなお男性社会における、女官や医女といった女性の役割から出ない範囲に留まっていた。しかし「女性中心の社会でなければ、先進国として跳躍できない」といわれる韓国国内の社会的背景で、2000年代には女性が主体的に中心として浮上したドラマが作られ、史料にわずかしか記述がない女性を主人公に据えた女性の成長物語のドラマが歴史ドラマの分野で増加してきた。女性が男性社会において権力の頂点に立ち、新羅次代に初の女性統治者となった『善徳女王』(성덕여왕, 2009年)が顕著な例である。善徳女王のライバルとして、権力の篡奪に策略を巡らす毒婦ミシルがコ・ヒョンジョンによって演じられている。イ・ビョンフン監督の『トンイ』(동이, 2010年)は、前作の『イ・サン』(이산, 2007年)とは異なり、朝鮮王朝時代、貧しい階級に生まれた女性トンイを主人公として、困難を克服して次代の王を産み育てていくドラマである。韓国初の女性大統領をテーマとした『レディ・プレジデント』は、2010年の韓国SBS演技大賞で7部門を記録した。ただ大統領は一期だけしか務めず、最終的には恋人の傍でカクテキを作るアジュンマになることでハッピーエンドとしている。また時代劇において女性が公の場で活躍するシーンは歴史的経緯から不可能であったが、前述の『善徳女王』『トキメキ☆成均館スキャンダル』(성균관 스캔들, 2010年)『幻の王女チャミョンゴ』(자명고,

⁶³ 李南錦「韓国近代における〈女性〉：「新女性」をめぐる『大学教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成』活動報告書、2009年、186-191頁、186頁、190頁。

⁶⁴ 朝鮮日報編『韓国人が見た日本 日本を動かしているもの』サイマル出版社、1984年、201頁。

2009 年) のように、男装の女性が女性であるハンデを乗り越え、文武両道で男性と対等に活躍するタイプのドラマも制作されている。これまで主流だったシンデレラ・ストーリーではなく、女性自身のサクセスストーリーも次々と制作されるようになった。このような韓国ドラマの流れの大きな転換から、日本に先んじた、女性をめぐる急速な意識の変化と関心の高さが窺える。

以上のように韓国映画・ドラマの多くの本質的構造の中からジェンダーに焦点を当てて比較すると、必ずしもトランスカルチュラルではなく、簡単に理解することのできない側面や韓国の抱えるジェンダーや女性の抱える問題の独自性が浮き彫りになる。韓国映像文化は異文化であり、強烈な異質性が訴求力と今日の韓流と嫌韓の両方を生み出したのである。韓流は、これまで西欧にまなざしを向け、アジアの中で、隣の国同士でお互いを見つめ合うことをせず、空白のままだった日韓の文化交流を、ただの一過性のものでなく、大きく広め反動を呼び、そして理解を深めていくという、重要な機会となったことは確かである。そしてグローバル化の中で、共通性を探すだけでなく、同時に異質性を意識した上で韓流に接することは、今後の両国の関係性の深化の上で欠くことはできないのである。日韓比較は、韓流が単なる文化消費で終わらず、本質的な問題にまで進んでいく上で欠かせない議論であるといえる。